

ふじまる通信



発行：田山ふじまる事務所 長崎県佐世保市相浦町 220 TEL/FAX 0956-59-8762 携帯：080-1795-6159

情熱と行動、未来への責任。



新たな公民連携のまちづくり団体が発足!!

佐世保市相浦地区を起点に地域活性化を図るため、地元有志を中心に「相浦未来まちパートナーズ」の設立総会が行われました。民間の若手経営者や県立大学、短大の先生、地域も参加して、相浦地区の中心に位置する広大な農地や老朽化した総合グラウンドの活用等も視野に、地域の将来構想「相浦ビジョン」の策定が進められます。地元の魅力や特徴を再確認しながら、住民・大学・企業・行政が連携し、相浦地区のみならず西九州地域の活性化を推進するプラットフォーム(基盤)を目指す予定です。

◀公式ロゴマークも発表されました

相浦未来まちパートナーズ

相浦地域の振興へ将来構想

相浦未来まちパートナーズ 設立総会

2022年7月5日 長崎県立大学佐世保校 団体公式HP

離島、デジタル、食財の専門家が集結

佐世保の離島・高島と黒島を視察しました。離島振興の側面から地域を繋げて活性化する方策を検討しています。まさに離島は課題先進地。地域分析を今後の政策立案に活かしていきます。

2022年4月28日 番岳

2022年夏ご挨拶

皆様には日頃より一方ならぬご厚情を賜り、深く感謝申し上げます。暑い日が続く、新型コロナウイルスの影響も長期化する中で、ウクライナ危機、円安と物価高による経済情勢、安倍元首相の銃撃事件など、混沌とした世相が続いています。そんな中だからこそ、**政治の役割**が問われているはず。とくに、最も住民に近い**地方自治は民主主義の学校**とも言われます。市民の皆様方から寄せられた声に向き合い、協働して解決策を考えていく。引き続き、その姿勢を胸に刻み、日々の活動に邁進します。佐世保市の学校再編方針の中で、地域をあげて要望していた**大崎分校と高島分校の存続が決まり、総合グラウンドの再整備も検討が始まりました。**私の任期も残りわずかになってきましたが、皆様の変わらぬご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

田山 藤丸 拝

保護司の紹介、更生保護活動とは

保護司とは、社会奉仕の精神で、犯罪をした者の更生を助けるとともに、犯罪の予防のため世論の啓発に努め、個人と公共の福祉に寄与することを使命に活動を行う民間ボランティアです。犯罪や非行をした人たちと定期的に面接を行い、生活上の助言や就労の手助け等を行う保護観察や、少年院・刑務所に収容されている人が釈放後に社会復帰できるよう必要な受け入れ態勢を整える生活環境の調整、犯罪予防活動等に取り組んでいます。



2022年7月1日 社会を明るくする運動・のぼり設置

若さと行動力、地元目線で課題の解決、活性化を図ります。

| | | | |
|---------------------------|---------------------------|-----------------------------|----------------------------|
| 2021年12月26日 新田町公民館で餅つき | 2022年1月6日 佐世保市消防出初式 | 2022年2月14日 相浦町で要望箇所の現場確認 | 2022年3月17日 相浦小学校卒業式 |
| 2022年4月16日 相浦川鯉のぼりの準備 | 2022年4月28日 黒島で電気自動車に乗車 | 2022年5月22日 護衛艦はるさめの出国行事 | 2022年5月28日 永田町の自民党本部を訪問 |

対話集会を開催しました!!

6月18日、相浦地区コミュニティセンターにおいて、地域の皆様にご参加いただき対話集会を開催しました。会場の規模からご案内を限定せざるを得ませんでしたが多くの方々にご参加いただき、市政全般や地域課題について意見交換ができました。今後は、コロナの状況を見ながら地域での市政報告会を計画していきます。



地域の声を行政へ届けています!!

| | |
|-------------------|----------------|
| 愛宕山登山道入口カーブミラーの設置 | 棚方緑町道路側溝の整備 |
| 相浦工業団地沿いの歩道水切りの設置 | 相浦駐屯地入口道路の補修改良 |

中央公園(名切)リニューアルが完了!!

全体図

屋外遊び場、おトピア場、キャンプ利用案内カフェ、駐車場(64台)、駐車場(119台)、売店、芝生広場、ステージ、回廊、屋内遊び場(子ども未来部所管)、駐車場(21台)

凡例
特定公園施設
公券対象公園施設

《プロフィール》 たやま ふじまる 佐世保市議会議員 田山 藤丸

- 1989年7月23日生まれ(33歳)
- 長崎県立大学経済学部地域政策学科 卒業
- 佐世保市議会議員(1期目・29歳で初当選)
- 総務委員会 副委員長
- 議会運営委員会 委員
- 石木ダム建設促進特別委員会 委員
- 所属党派:自民党市民会議
- 相浦青年会、消防団第26分団、保護司等
- 佐世保私立幼稚園協会 顧問
- 佐世保私立幼稚園 PTA 連合会 会長
- 自由民主党佐世保支部 青年部長
- 妻、2男、1女と新田町在住

長崎新聞 (2022,6,22)

総合グラウンドの再整備 令和7年度より事業着手の 可能性が見えてきました。

佐世保市教委の西本副委員長は、統廃合を含めた整備方針をまとめる。市教委は、令和7年度より事業着手の可能性が見えてきました。

市教委 統廃合含め24年度目標に

佐世保市教委の西本副委員長は、統廃合を含めた整備方針をまとめる。市教委は、令和7年度より事業着手の可能性が見えてきました。

市議会への答弁。市総合グラウンドは1969年の長崎県本に合わせ、推木町に整備。陸上競技場やプール、野球場、体育館などを備えるが、建設から50年以上がたつ。維持管理のための修繕工事を重ねている。

市教委スポーツ振興課によると方針の対象は、市教委が管理する施設。市町合併により類似施設が重複しているケースもあり、統廃合を含めた案をまとめた後、順次事業に着手していく。

田山議員は、スポーツ合宿や大会の誘致で交流人口を増やすためには、スポーツ施設の機能向上も不可欠と指摘。西本副委員長は、人口減少や利用済み、地域偏在などの状況を踏まえ、必要と認められる機能を整理したいと答弁した。(山口彩佳)

《2022.6.21》6月定例議会 一般質問

田山 藤丸 教育長 企画部長

スポーツコミッションについて

田山：国の第3期スポーツ基本計画が4月より始まり、新たにスポーツの分野に地方創生、地域の活性化、まちづくりの視点が織り込まれ、スポーツ施設の管理運営をはじめ、民間活力を導入して、周辺地域のまちづくりと一体となった取組が掲げられている。本市には九十九島など風光明媚な景勝地があり、山や海などの自然、多様な食、文化、歴史が豊かでこれまでも訪れる方々を魅了してきた。本市のスポーツ大会や合宿の誘致、スポーツコミッションによる取組の現状をお尋ねする。

さらに、スポーツコミッションを活用し、スポーツ合宿や大会誘致を図ることで、交流・関係人口の増加に繋げ、持続可能なまちづくりを実現していくには、組織づくりのみならず、スポーツ施設の機能向上も不可欠であり、中長期の戦略が必要だ。しかし、本市の総合グラウンドは老朽化が激しく、抜本的な対策に至っていない。現在の進捗状況はどのようになっているのか。

教育長：スポーツの経済効果を市内に波及させるためには基盤となるプロスポーツ団体や一定レベル以上の施設を充実させる必要があるため、パートナーとなる有力民間企業との提携や政策投資が必要となる。残念ながら本市では平成23年以降、補助金交付の対象となる一定規模のスポーツ大会や合宿の誘致の実績はない。現在、本市で策定を進めるスポーツ推進計画に様々な可能性を検討し、反映させるべく努力している。

総合グラウンドは、本市全スポーツ施設を対象に施設の再編計画を策定する中で、令和6年度末には全体の整備方針を決定し、総合グラウンドに必要な機能を整理した上で抜本的な再整備に着手したい。

統合型リゾート (IR) について

IR全体床面積の3%以下

タワーホテル、パレス、ハウステンボス、カジノ施設、MICE施設、SASEBOメッセ、ジャパンハウス、インベリアルレストラン(迎賓館)、旅館エリア、ホテルザッパ(ホテルヨーロッパ)、ホテルショッピングモール

長崎県・佐世保市における人口減少・若者の市外流出などの課題解決に向けた 地方創生 IR

IR 開業までの想定スケジュール

2021(R3)年度 2022(R4)年度 2023(R5)年度以降

2021年1月 実施方針の策定

2021年8月 IR事業者の選定

2022年4月27日 区域認定申請

2022年秋～冬頃 区域認定

2023年～ 土地引き渡し 実施協定

2027年度 IR開業 国内初

これからの離島振興について

田山：佐世保市の離島・高島では今春、相浦小学校高島分校の存続が決まった。そこで、老朽化が激しい教職員住宅の建て替え事業に着手すべきと考える。とくに離島の教職員の方々は、島民にとって家族同様に大切な存在であり、地元は早急な対応を求めている。また、建替えが実現するならば、同様に老朽化している高島保育所や集会所なども総合的に将来のあり方を検討し、複合施設の建設や官民連携手法の検討を実施すべきではないか。

教育長：高島の教職員住宅と保育所の老朽化対策は喫緊の課題であり、今後はPFI事業を活用した施設整備も視野に地元や関係部局と検討を進めたい。

左のQRコードより議会質問の録画中継をご覧ください。

長崎新聞 (2022,3,17)

市内へのエリア拡大要望

交通系ICカードのJ R 駅利用

佐世保市議会

定例佐世保市議会は16日、個人質問を実施し4人が登壇。市は、県とJR九州との3者で構成する「佐世保線等整備検討委員会」が、交通系ICカードが市内のJ R 駅で使えるようエリア拡大を求める方針を示した。田山議員(自民党市議会)の質問に、田中副市長が答えた。

市によると、市内では、松浦鉄道(MR)が2020年3月、路線バスが同月にICカードを導入。一方、J R は県内で長崎駅と大村市の竹松駅の間で対応しており、佐世保市内では利用できない。

同僚議員は、九州新幹線長崎ルートに佐世保駅が92年に開通されたことを受けて設置、J R 佐世保線の高速化事業を進めている。田山議員は、長崎ルートの実現には(佐世保経由)の検討を求めた。(田下寛明)

断念した。県北地域の苦境の法断があった。高速化事業に加え、ICカード導入も国や県に整備費の負担を求めながら検討するべきだ」と指摘。田中副市長は「九州内外からの観光客などを周遊させ、県全体に新幹線効果を波及させるためにも、ICカード導入により、利便性を向上させることが不可欠だ」と答弁。同検討委での協議を求める考えを示した。(田下寛明)

JR 佐世保線の輸送改善・高速化事業

佐世保-有田間、県が約14億円かけて枕木やレールを改良さらに振り子車両を導入し、佐世保-博多間を8分短縮する

JR佐世保線の輸送改善策

- 振り子車両を導入し、その性能を生かし速度向上させるための路盤改良を行う
- 2022年度(令和4年度)の西九州ルートの開業に合わせた実施を目指す

以上の輸送改善によって速達性、快適性を上げることが、長崎県、市、JR九州で合意した。

今後について輸送改善が確実に実現されるよう、その進捗を注視しながら、長崎県、JR九州に適宜対応を求めていく。

| 区間 | 最高速度 | 最低限の整備 | 整備しない | 速度アップ |
|-----------|---------|--------|--------|-------|
| 佐世保-有田 | 95km/h | 20.6km | 14.5km | 約2分短縮 |
| 有田-武雄温泉 | 130km/h | 13.7km | 13.7km | 約3分短縮 |
| 武雄温泉-肥前山口 | 130km/h | 68.2km | 68.2km | 約3分短縮 |

博多～佐世保間は合計で8分短縮

しかし!! 高速化事業が完了しても、示された新ダイヤでは、時間短縮効果が不十分

市で行ったJ R 佐世保線への影響に関する考察

- 「特急みどり」の一日当たりの本数は、現在と同じ32本/日は確保されている。
- 県により試算されていた博多～佐世保間の所要時間短縮は、整備工事及び振り子車両の導入により、下りの最終便など一部達成されている。
- 西九州新幹線の開業に合わせて、佐世保線に振り子車両(885系)を一日10本導入されている。(一編成6両)
- 新たに設定された「リレーかもめ」としての役割を持つ10本については、武雄温泉駅での停車時間の変動や、現状の乗車率(平均30%~40%、最大56%)を考慮しても、リレーとなったことによる大きな影響はないものと思われる。
- 本来高速化事業による効果が発揮されるべき高速化工事区間(佐世保～有田間)において、現在のダイヤより所要時間が増えている便が散見されるなど、高速化事業による時間短縮効果が感じられない。(佐世保～武雄温泉間で分析)
- 博多～佐世保間全体で見ても昼間の時間帯における平均短縮時間は小さく、佐世保線輸送改善効果が上がったとは言えない。

今後、県、市、J R九州で構成する「佐世保線等整備検討委員会」の中で、新幹線開業までに早急な改善を求めていきたい

《2022.3.16》3月定例議会 一般質問

田山 藤丸 田中副市長 市民生活部長

交通系ICカードの導入について

田山：佐世保市内は交通系ICカードが路線バスと松浦鉄道で導入されているものの、J R九州の市内の駅には導入されていない。現在、J R佐世保線では県事業で高速化事業に取り組んでいるが、令和4年度当初で事業が完了する。そこで、次に交通系ICカードの導入をJ R九州と長崎県に対して働きかけるべきではないか。ハウステンボスへのI R誘致、新幹線の開業を見据え、交流人口の増加が見込まれる今だからこそ、佐世保線と大村線への交通系ICカードの導入に向けて取組を強化すべきだ。一方、導入には相当の整備コストがかかる。しかし、長崎県の強い求めで新幹線の本市への乗り入れを断念した経緯を踏まえ、導入の整備費用は、国または県に負担していただくことも求めながら、早期の実現に向けて検討を行うべきではないか。

田中副市長：今後、西九州新幹線開業やI Rの区域認定がなされた場合は、J R佐世保線や大村線の利用者の増加が見込まれている。九州内外から観光客を周遊させ、県全体に新幹線効果を波及させるためにも、ICカード導入で利便性を向上させることが不可欠である。佐世保線の輸送改善は、長崎県、佐世保市、J R九州の3者で構成する佐世保線等整備検討委員会として取り組んでおり、今後ICカードのエリア拡大についても、協議会の場で早期実現を求めていきたい。

公共施設のスマートロックについて

田山：近年、公共施設の予約と利用の手続きを簡略化し、セキュリティの強化、施設の効率的な運営、災害時に避難所の開放を迅速に行う目的で、スマートロックを導入する自治体も出てきている。種類も様々で、Wi-Fiで通信し、クラウドシステムでどこからでも管理可能な環境を構築できるほか、高齢者から子どもまで分かりやすい暗証番号方式が基本となっている。また、メモリー搭載の電池式ロックが主流で、停電時の影響も受けず、事前に避難所の番号を設定、その暗証番号を伝えるだけで避難所を開放することが可能である。そこで、本市もスマートロックを導入するべきではないか。

市民生活部長：スマートロックは、簡単に鍵の開け閉めが可能であり、鍵の受渡しも不要で入退室の履歴を管理できるなど、大変機能的なシステムである。まずは導入に必要な経費や財源などについて研究し、各地区のコミュニティセンターへの導入を検討したい。

左のQRコードより議会質問の録画中継をご覧ください。